

嘉数 歴史文化遺産マップ

私有地にある場合もある
ので見学の際は
注意しましょう!

⑧ ウィーヌヤマ(上ヌ山) (嘉数高台公園)



集落で最も重要な聖地とされ、「琉球国由来記」(1713)には「スバナリノ御嶽」とあり、「おもろさうし」には「かゝもりぐすくねたてもりぐすく」とあります。昔は石塁で区画されていましたが、首里城を築造するにあたり、農民はその石を一つ一つ担いで首里へ献上したといういわれもあります。祠は首里王府が認めた御嶽であり、集落の発生と深い関係があります。

⑨ 村獅子



ヒーゲシ(火伏)の厄払いの守り神です。その姿は戦災で失われてしまい、現在はその後制作された大型のシーサーが安置されています。

⑩ トウン・ジトゥーヒヌカン(殿・地頭火ヌ神) (嘉数トウンヌヤマ遺跡)



トウン(殿)は古くはウマチーなと豊作祈願でノロや村人が祭祀を行う場所で、かつてはトウンヌヤマという小さな丘になりました。ジトゥーヒヌカン(地頭火ヌ神)は、トウン(殿)にあり、また、この一帯はトウンヌヤマ遺跡というグスクから近世の遺跡でもあります。

⑪ ミーガー(新泉)

洞窟の中を流れる湧泉。生活用水のため集落の予算で築造しました。



⑫ カンカー石



旧暦八月十日に集落で挙げるカンカー(厄払い行事)で牛一頭を屠殺(とさつ)し、カンカー石に供え、残りは各家庭に分配しました。

⑬ サクラガー

集落中央のクムイ(ため池)。ウィーヌヤマから流れた水が溜まり、細引きのカヌチ棒を沈めて保存していました。協力一致の碑も建立されていました。

⑭ トーバルヌヤマ(桃原ヌ山)



トーバル(桃原)の屋敷であった場所にあるこんもりとした丘で、拝所となっています。航海安全祈願の神様といわれています。

① 小祿臺 (県指定有形文化財[建造物])



断崖の中腹を掘り込んで、正面を石積みでふさいだ古式の墓です。葬儀の際には、正面中央の石積みを取り外し、御轎またはガン(籠)[肩にかつぐ輿]を入れます。

② 小祿臺内石厨子 (県指定有形文化財[彫刻])



蔵骨器の正面中央には『弘治七年おろく大やくもい六月吉日』の銘文があります。中国年の弘治七年(西暦1494)と記する沖縄最古級の平仮名文字です。

③ 小祿臺石彫香炉 (市指定有形文化財[彫刻])



香炉の四面に火炎宝珠(又は太陽)や麒麟・花生け、四隅に獅子が浮き彫りされています。中国年の嘉慶11年(西暦1806)に馮姓の士族が寄進しました。

④ 小祿臺石彫獅子 (市指定有形文化財[彫刻])



墓守りの石彫獅子です。獅子は、立ち上がった形ですが、現在は磨滅がいちじるしく、元の姿が分かりづらくなっています。

⑤ シュイワタンチ(首里渡し)



旧国民学校への通学路と比屋良川が交差する場所にあった川を渡るワタンチ(渡し)のことです。大雨が降ると渡れませんでした。首里に行くための道であったため、シュイワタンチ(首里渡し)といわれています。

⑥ ウシヌクスーピラ

坂がきつく牛が糞をしなから登ったためウシヌクスーピラという説と、周囲の地形が牛のこぶのように見えるまたは坂を登るとき牛のクブ(後頭部)しか見えなかったためウシヌクスーピラという説があります。

⑦ ナンマチ(並松)



宜野湾村の内陸部を縦断する道路で主に首里への道として利用されていました。道の両側に松が林立していたのでナンマチ(並松)といわれています。

⑰ マーヒガー



マーヒガーラ斜面にあり、中を流れるカー(泉)は周辺の畑の農業用水に利用され、流れ出た水を利用して水稻を栽培していました。戦時中は避難壕として利用されました。

⑱ ティラガマ



首里桃原の美女が家を逃げ出して、休息した場所といわれています。その美女が普天満宮の祭神である女神だといわれています。戦時中は避難壕として利用されました。



★ 文化財が残っています。
☆ 現地には残っていません。

嘉数のウブガーで、子どもが産まるとウブミジ(産水)を汲んでいました。正月にはワカミジ(若水)も汲んでいました。